

# 第 2 章

## 实践事例



## ( 1 ) 作成のねらいと使い方

### ア 大阪市の生徒の現状

平成 25 年度大阪市「全国学力・学習状況調査」の結果によると、本市の生徒は、国語、数学とも全国平均を下回っております。特に国語 B 問題において、全国の平均正答率より 6.4 ポイント低く課題が見られます。平均無解答率については、平成 21 年度の全国平均との差は、数学 B において全国無解答率より 4.2 ポイント高いが、それ以外では、全国との差は縮小しています。しかし、平成 24 年度との比較では、国語 B を除いて拡大しています。特に思考力・判断力・表現力等が問われる読解や記述式の問題など「活用」に関する問題で全国平均との差が顕著にみられます。

質問紙調査の結果では、自分の考えを書くときに組み立てを工夫したり、考えの理由が分かるように気をつけて書いたりすることを意識しながら、「話す」「聞く」活動に取り組む生徒が増えてきています。しかし、全国値に比べても、十分と言えないのが現状です。特に根拠を明確にして、自分の考えを具体的に書くことに課題があります。今後、言語活動の取組をより効果的に推進するために教科等を横断した実施方法の工夫や継続的な研修が必要です。

### イ 言語活動の充実

児童・生徒の言語力の充実を図るために、「大阪市学力向上強化戦略」(平成 20 年 10 月)に示された 6 つの戦略の一つとして、「言語活動の充実を図る授業づくりの推進」が挙げられ、平成 25 年度からは大阪市教育振興基本計画の「言語力や論理的思考能力の育成」の取組に引き継いでいます。

言語は知的活動、コミュニケーション、感性・情緒などの基盤である

中央教育審議会答申(平成 20 年 1 月)では、「言語は、知的活動(論理や思考)だけでなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもある」としています。思考力、判断力、表現力等の基盤となる読解、記述、コミュニケーション(報告や発表・討論)といった多様な言語活動を学習活動に取り入れ、生きる力を育むことが大切です。

国語科で培った能力を基盤とする

国語科においては、言語の果たす役割を踏まえて、基本的な国語の力を定着させたり、言葉の美しさやリズムを体感させたりするとともに、発達の段階に応じて記録、要約、説明、論述などの言語活動を行う能力を培う必要があります。各教科等においては、国語科で培った能力を基本に、それぞれの教科等の目標を実現する手立てとして、言語活動を充実させる必要があるとしています。

各教科等での言語活動の充実

各教科等の言語活動の充実に当たっては、これまでの指導を把握・検証した上で、各教科等の目標と指導事項との関連及び生徒の発達段階や言語能力を踏まえて言語活動計画的に位置付け、授業の構成や指導の在り方を工夫・改善していくことが重要です。そのため、教科間の関連や学年を超えた系統的で意図的、計画的な言語活動を行うことが求められています。

## ウ 「実践事例集」のねらい

中央教育審議会答申において、「教育内容に関する主な改善事項」の(1)に「言語活動の充実」が掲げられ、各教科等を貫く重要な改善の視点とされています。

大阪市教育委員会では、生徒の学力に係る課題を踏まえて、思考力・判断力・表現力等を育むために言語活動の充実を図る授業を展開することが大切であると考えています。そのため、平成23年より指導法の具体的なモデルを示した「言語活動の充実を図る実践事例集」を作成しています。

作成に当たってのねらいは、次の5つです。

各教科等の目標を達成するために、教科等の特性に応じて効果的に言語活動を取り入れていく授業づくりをめざしています。これまでの言語活動を見直し、指導法の改善につなげます。

多用な文章や資料・情報を正確に読み取り理解する力を伸ばす

多様な文章や資料・情報から得た知識と体験を結びつけて、自分で考える力を伸ばす

自分で調べたり、感じたり、考えたことを表現し、人に正確に伝える・説明する力を伸ばす

相手を尊重し、話に反応し、交流できる力を伸ばす

自分や集団の学習を評価・改善して、発展させる力を伸ばす

生徒の言語活動を充実する際には、知的活動に関することとともに、コミュニケーションや感性・情緒に関することという言語の果たす役割を踏まえ、発達段階に応じた指導を行うことが大切です。

## エ 「実践事例集」の使い方

この指導事例は、「言語活動の充実を図る授業づくり研修会」での公開授業指導案に、協議・検証を加えたものです。これを基に、各学校や生徒の実態等に応じて、工夫し、活用してください。

各教科等の指導例は、「学年」「単元」「目標」「学習指導要領との関連」「重視した言語活動」「評価規準」「学習指導計画」「資料」となっています。

指導案に、「学習指導要領との関連」を明確にするため、各教科等の指導事項や指導内容との関連を記載しています。

「重視した言語活動」では、単元で重視した言語活動を記載しています。単元・目標・教材が変われば、他の様々な言語活動の工夫が可能です。

言語活動の充実のポイントでは、「学習指導計画」や「本時の展開」の中にこの個所があります。その部分が、「取り入れた言語活動に関わる部分」を示しています。言語活動を行う際の留意点等を挙げています。

「評価の観点」では、言語活動を通して育成する思考力・判断力・表現力等について、各教科等に対応する評価の観点を挙げています。

ワークシートは、各教科等に応じたワークシートが掲載されています。生徒の実態に応じて活用してください。

## 実践事例集で取り上げた各教科等の単元・目標・指導事項と重視した言語活動一覧表

	単元・目標	学習指導要領との関連（指導事項・内容）	重視した言語活動
国語	<p>「社説を書こう！～説得力のある文章を書く～」</p> <p>第3学年</p> <p>論理の展開に着目して読もう 新聞の社説を比較する</p> <p>新聞の報道記事や論説などの表現方法を理解する。</p> <p>構成や表現方法を工夫して、論説文を書く。</p>	<p>「書くこと」の指導事項</p> <p>ア、日常生活から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめる。</p> <p>イ、集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成する。</p> <p>ウ、伝えた事実や事柄について、自分の考えや気持ちの根拠を明確にして書く。</p> <p>エ、書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にする。</p>	<p>社説を書くために必要な文章を集め、工夫して編集すること</p> <p>社説の構成や展開、表現の仕方について評価すること</p>
社会	<p>「時代の特色をとらえよう」</p> <p>第2学年</p> <p>時代を大観し、その特色を多面的にとらえ、表現する力を養う。</p> <p>時代の特色をとらえる過程で、自分の考えや他の人の考えを交流し、自分の考えを作る力を養う。</p>	<p>学習指導要領は、「2 内容(1) 歴史のとらえ方 ウ 学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を通して、各時代の特色をとらえさせる」ことを求めている。</p> <p>「時代を大観し表現する活動」とは、学習した内容の比較や関連付け、総合などを通して、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目しながら、「つまりこの時代は」「この時代を代表するものは」など各時代の特色を大きくとらえ、言葉や図などで表したり、意見交換したりする学習活動である。</p>	<p>時代の特色を振り返り、自分の言葉で表現する。</p> <p>グループ活動を通して、時代認識を深めるため、自分の考えの発表、交流、また、他の考えとの比較、自分の考えの修正などを行う。</p>

		これらの活動を通して、考えを交流することにより、時代を大観し、時代の特色を多面的に表現する力を養うことをめざす。	
数学	<p>「4章 図形の調べ方」 第2学年</p> <p>平行線や角の性質を理解し、それに基づいて図形の性質を確かめ説明する。平行線の性質や三角形の角についての性質を基にして、多角形の角についての性質が見いだせることを知る。相手に根拠を明らかにし自分の考えを伝える。</p>	<p>中学校学習指導要領の第2章第3節数学第2(第2学年)の2において、B(1)「観察、操作や実験などの活動を通して、基本的な平面図形の性質を見だし、平行線の性質を基にしてそれらを確かめることができるようにする」ことが示されている。</p> <p>〔数学的活動〕(1)アにおいて、「既習の数学を基にして、数や図形の性質などを見だし、発展させる活動」、ウでは、「数学的な表現を用いて、根拠を明らかにし筋道立てて話し合う活動」といった学習機会を設けるよう示されている。</p>	<p>数学的に表現したり、解釈したりすることのよさを実感できるよう、図形の性質について伝え合うことで、お互いの考えをよりよいものに改めたり、一人では気付くことのできなかったことを見いだしたりする活動を行う。</p>
理科	<p>「運動とエネルギー」 第3学年</p> <p>物体の運動やエネルギーに関する観察、実験を通して、物体の運動の規則性やエネルギーの基礎について理解させるとともに、日常生活や社会と関連付けて運動とエネルギーの初歩的な見方や考え方を養う。</p>	<p>中学校学習指導要領第2章第4節理科第2(第1分野)2において、(5)運動とエネルギーが示され、また、第3の1の(2)において、「問題を見だし観察、実験を計画する学習活動、観察、実験の結果を分析し解釈する学習活動、科学的な概念を使用して考えたり説明したりするなどの学習活動が充実するように配慮すること。」と示されている。</p> <p>本事例では、衝突球の現象について「作用・反</p>	<p>問題を見だし観察、実験を計画する場面では、事実や根拠に基づいて結果を予想したり、検証方法を討論したりしながら考えを深め合うよう留意する。</p> <p>観察、実験の結果を分析し解釈する場面では、結果を図、表、グラフなどの多様な形式で表したり、モデルと比較したりするなど、考察する時</p>

		<p>作用の法則」と「力学的エネルギー保存の法則」の概念を使用して、予想、結果について根拠を示して説明させる。また、グループ内やグループ間で互いの考えを伝え合い、自分や集団の考えを深め、まとめる活動で思考力・表現力などを育成する。</p>	<p>間を十分に確保し考えをまとめ表現する学習活動を充実する。 科学的な概念を使用して考えたり説明したりする場面では、レポートの作成、発表、討論など知識及び技能を活用する学習を工夫する。</p>
<p><b>音楽</b></p>	<p><b>「トガトンでリズムを創作し、様々な感情を表現しよう」</b> <b>第2学年</b></p> <p>リズムに関心を持ち、意欲を持って主体的に創作する。 リズムを知覚し、それが生み出す特質を感受し、思いや意図を持った創作表現の工夫をする。 リズムや強弱を意識して様々な感情を表して創作する。</p>	<p>中学校学習指導要領第2章第5節音楽〔第2学年及び第3学年〕の2内容「A表現」(3)のイ「表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくること」を踏まえ、本指導事項では、表現したいイメージをもち、トガトンの特徴を生かして創作をする。また、〔共通事項〕の「リズム」に着目し、表現したいイメージや雰囲気と、リズムとを関わらせて創作していく学習活動を展開する。</p> <p>さらに、第3「指導計画の作成と内容の取扱い」2の(5)「創作の指導については、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視すること。創作する過程で、「表現したいイメージを持ってからリズムを創作する」という手順だけでなく、「偶然的にできあがったリズムから</p>	<p>班でリズムを創作することを通して、表現したいイメージやリズムとを関連させて自己の思いを伝え合う。(言語による表現力) 創作した作品を聴き合い、知覚したリズムを根拠として、感受したイメージを発表する。(音楽表現力)</p>

		<p>生み出される特質を感受し、それをもとにさらに創作をすすめる」という手順をとることを可能にするために、ホワイトボードやマグネットを用いたり、デジタルカメラを用いたりして、作品を記録させることによって創作の学習の充実を図る。</p>	
<p>美術</p>	<p>「～が一目でわかる！校内ピクトグラムのデザイン」 第1学年</p> <p>身の回りにある、伝達のデザインに関心を持ち、新入生に校内の情報をわかりやすく伝える表現の構想を練り、創造的に表現する。</p> <p>伝達のデザインにおける形や色彩の効果などについて理解や見方を深め、自分の価値意識を持って味わう。</p>	<p>A 表現</p> <p>(2)イ 他者の立場に立って、伝えたい内容について分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること。</p> <p>(3)ア 形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現すること。</p> <p>B 鑑賞</p> <p>(1)ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り、作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げること。</p> <p>〔共通事項〕</p> <p>(1)ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。</p>	<p>形や色に対する見方や感じ方を広げるために、身の回りにあるマークや記号など、一目で内容が伝わるデザインの形や色について、その感情効果やイメージなどを班で話し合うこと。</p> <p>班でお互いの作品を鑑賞し合い、それぞれが表現意図にふさわしい効果的なデザインになるよう、よい点を見つけたり、修正のアドバイスをしたりするなどの意見交流すること。</p>



		イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。	
保健 体育	<p>「柔道」 第1学年</p> <p>柔道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できる。 (知識、思考・判断)</p> <p>相手の動きに応じて基本的な動作を行い、基本となる技を用いて、投げる・抑えるなどの攻防を展開することができる。(技能)</p> <p>授業に積極的に取り組むとともに相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守り、分担した役割を果たすこと、併せて禁じ技を用いないなど、互いの健康・安全に気を配ることができる。 (態度)</p>	<p>自己の課題をもって運動を行うため、それぞれの課題を明確にし、意識しながら練習に取り組む。</p> <p>一定の規則に従って、対人的技能を競い合うものであり、競技規則を守るとともに相手を尊重し、公正な態度で安全に競技する姿勢を身に付ける。</p>	<p>相手の動きを見て、技能を高めるための適切な助言と、それを伝え合う意欲を培う。</p> <p>互いに声をかけ、呼吸を合わせて練習する。</p>
技術	<p>A「材料と加工に関する技術」 - 木材の街 “平林” を知ろう - 第1学年</p> <p>木材の特徴と性質についての知識を身につける。</p> <p>木質材料の特徴を知り、使用目的や使</p>	<p>A 材料と加工に関する技術</p> <p>(2) ア 材料の特徴と利用方法を知ること。</p> <p>(3) ア 使用目的や使用条件に即した機能と構造について考えること。</p>	<p>様々な木質材料(平林地区の地場産業のひとつ)の実物より、材料的な性質のみならず、使用者への安全性、環境への影響、経済性などの特徴も含めて読み取る。</p> <p>グループ討議及びクラス発表、他者への聞き取りを通して、木質材料の</p>

	用条件に応じて材料を適切に選択できるようにする。		特徴についてより深く理解する。
家庭	<p>「食生活と自立」 第2学年</p> <p>食生活に関心を持ち、基礎的な日常食の調理ができる。 安全や衛生、環境に配慮し、食材の特徴を理解して効率的に調理する力を身に付け、食生活をよりよくするための工夫ができる。</p>	<p>「B食生活と自立」の内容(3)「日常食の調理」に関する実践事例である。調理実習などの実践的・体験的な学習活動を通して、中学生の栄養と調理についての基礎的・基本的な知識及び技術を習得することができるよう、身近な食材を用いた日常食の調理実習を設定した。食材の調理性や用具の適切な扱い方を理解し、安全や衛生に留意して、効率よく調理ができるようにするとともに「D身近な消費生活と環境」の内容(2)ア「家庭生活と環境」とも関連を図り、家庭で実践する意義に気付かせるようにした。</p> <p>食生活への関心と理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって食生活をよりよくしようとする能力や態度を育成するため、調理実習の過程や結果を整理し、考察する学習活動として、実習の前後に班及び係によるグループワークを取り入れた。実習結果や次時の調理実習計画などについて、考えたり、説明したりするなどの学習活動を通して、言語活動の充実を図っている。</p>	<p>活動班での調理実習の振り返りを通して、課題を見つけ、各係で話し合うべき内容を考える。</p> <p>各係で話し合った内容から自分の班に必要な情報を判別してまとめ、活動班に戻って説明する。</p> <p>各係が収集した情報を聞き、活動班で改善方法を検討する。</p> <p>今回の反省を生かして、次の実習を効率よく、安全に実施するためにはどうすればよいか考え、活動班で共通理解する。</p>

<p>外国語 (英語)</p>	<p>「LESSON 6 I Have a Dream」 第3学年</p> <p>後置修飾を使って人物や物事について表現することができる。 自分の尊敬する人物について説明することができる。</p>	<p>聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。 (学習指導要領 第2 各言語の目標及び内容等2 内容(1)言語活動 エ 書くこと(ウ)) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。 (学習指導要領 第2 各言語の目標及び内容等2 内容(1)言語活動 イ 話すこと(エ)(オ))</p>	<p>絵など視覚教材を用いて、場面に応じた内容を、後置修飾を使って表現できる。 6人程度のグループ内で自分の尊敬する人物について説明し、理由等を伝えあう。 自分の考えも含めて、まとまりのある文章を「書く」ことで整理する。 発表者が聞く側に分かりやすく伝え、聞く側も積極的に関心を示し、発表者に英語で感想を述べる。</p>
<p>道徳</p>	<p>「元さんと二通の手紙」から「逆境を乗り越える人間の強さ」を読み取る。 第3学年</p> <p>元さんの行動を通して、自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ道徳的態度を養う。</p>	<p>道徳学習指導案 内容</p> <p>1 - (3) 責任ある行動 自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。</p>	<p>主人公や、登場人物の心情をしっかりと読み取り、自分のものとしてとらえ直させる。 発問に対して、自分なりの言葉で答えさせ、道徳的な見方や考え方を養う。</p>